レッスン：PYR No.51

テーマ：アガピ

PYR51 KE07 L1/10/1/16

私の姉妹・兄弟たちよ、

スピリット、光、火の子供達よ。私たちは常に主、絶対、主の聖性のなかに抱かれています。

 過去においてアガピについてたくさん話してきました。アガピ（＊アガペ、神の愛）はLifeであり、Lifeはアガピであり、同時にLifeとアガピはまた絶対真理であると話しました。

　さて真剣な探求者はLifeからより多くを現すようにして、自分の気づきのレベルを上げるようにすべきだと言いました。実際、何が生じるかと言うと、私たちがアガピと呼んでいるものからより多くを現すようになるのです。勿論、過去のレッスンで述べたように、実際にアガピは一つであり、アガピにレベルがあるわけではありません。あなたがアガピを現すか、あるいはこの現れの波動において何か他のものを現すかのいずれかです。そしてその何か他のものとは、エロティズムの様々なレベルです。

　実際にエロティズムは誤解されてきました。エロティズムはアガピからの何かです。言い換えれば、エロティズムのあるレベルを現している誰かのための何かです。しかし同時に、もしエロティズムが誰か他の人のために表現されると、それもまたその誰かのためです。ですから、誰かが誰か他の人について関心を向けているということです。

　さてアガピはLifeと同義語であり、絶対真理の同義語です。探求者であるあなた方はLifeそれ自体からより多くを現すためにどのようにワーク、努力をしたら良いかを学びました。あなた方は潜在的可能性のサイクルのなかに見いだされるそれら全ての助けを与えられています。

　さて、それらのサイクルは全人類に助けを与えていますが、しかしそれを使用するか否かは各人によります。特定の永遠のアトムの全てのサイクルはパーソナリティー達を転生させ、活性化させるでしょう。そしてそれら全てのサイクルの転生は、様々なサイクル内のそれら全ての助けを利用する能力があります。そのようにして、現在のパーソナリティーは様々なサイクルの中で活動している間、Lifeそれ自体からより多くを現し始めるのです。

　さて、探求者としてあなた方は本当に努力し、エロティズムをより多く現し、Lifeからより多くを現すようにすべきです。その結果、他の同胞の人間たちのために一層役立つようになるために。

　過去において、エレブナが何を扱っているかについて話して来ました。しかし、時々それらをもう一度思い出してもらう必要があります。なぜなら、新しく入ってきた会員達はエレブナについて間違って教えられたか、あるいは間違って理解しているように見受けられるからです。

　前に述べたように、エレブナはリサーチ、探求の結果であり、何であれあなた方に与えられたものは経験による知識の結果です。それは外側から来たものではなく、また様々な本に書いてあるものを宇宙論としてまとめたものでもありません。あなた方に与えられて来たものは全て

経験に基づいた知識からのものです。それはテストされ、証明されてきた知識です。様々なサイクル内におけるいろいろな助けに関して、エレブナはそのようなアプローチを取っています。それら全ての潜在的可能性のサイクル、それはエレブナの経験的知識から来たものです。

　さて、どのようにしてエレブナがその知識と能力を現しているか、それは非常に多くの転生を通じたハードワーク、努力の結果であり、その教師はLifeです。そして私たちがLifeと言う時、それはイエスキリスト・ロゴスを意味し、それは全ての人の内側にあります。そしていいですか、それは特に4番目のサイクルをマスターすることを私たちに教えることができる唯一の教師であり、唯一のダスカロス（＊ギリシャ語で先生の意味）です。

　Page2

　なぜでしょうか？なぜなら、He（＊イエスキリスト・ロゴス） だけが現在のパーソナリティーに最大のミステリーを与えることができるからであり、それは火の洗礼であり、それはHe から直接に与えられます。それゆえ、いかなる現在のパーソナリティーも、誰かが自己実現に到達するように自分がその人を助けたなどと言うことはできません。現在のパーソナリティーが最大のサイクルを完了するのを助けるのはHe、主 だけです。

　進化成長のプロセスにおいて、他の地上的な教師がいたかどうかと言えば、答えはイエスです。勿論います。しかし、最終的に最大のサイクルをマスターし、完了する、つまり現在のパーソナリティーのサイクルを完了するのを助けるのはHe です。これだけははっきりと理解する必要があります。

　さて、レッスンで述べてきたように、あなた方は何が上向きで何が下向きかを認識できる能力を与えられています。それゆえ、何であれあなた方に与えられたものを使うかどうかはあなた方次第です。それはLifeのアベニュー（＊大通り、本道）に入るのを助けるための最初の鍵です。Lifeのアベニューと言う時、それはテオーシス（＊神との再合一）への道であり、脇道ではありません。

　なぜ今私がこのことを話しているのでしょうか？なぜならエレブナに新しい生徒、探求者が継続的に入ってきますが、彼等はアガピが何か、私たちエレブナがなにを扱っているのかを知りません。彼等は、エレブナで与えられるものは誰か他の人から知識の結果であり、エレブナがその知識を採用しているものと考えています。しかし、そうではありません。これはエレブナの体験に基づく知識です。

　さて他のシステム、組織と似ているところがあるかどうかと言えば、答えはイエスです。しかし、詳細については違います。詳細にいたるまでまったく同じリサーチというものはないでしょう。それはそのリサーチを行うパーソナリティー、パーソナリティー達によります。またその人達の体験のレベルによります。そして何であれ彼等が与える内容に関する彼等の体験によります。それもまた他とは異なります。

　エレブナとして私たちは最愛のお方の足跡に従っており、個人として私たちはそのようにする努力をしています。それは何であれ最愛のお方が与えるものを私たち自身が体験できることを意味しません。なぜなら前に述べたように、転生のサイクルの中で実存の諸世界に住んでいながら、存在の諸世界の体験的知識を持つのは不可能です。それはできません。

　何回も話していますが、会員に、探求者に与えるものに責任があります。何であれ私たちが与えるものに責任を持っています。なぜなら、それはテスト済みであり、実体験に基づいた知識だからです。しかし私たちは個人としてのあなた方がエレブナではなくてそれ以外から与えられたものを実践することに責任を持つことはできません。それに対しては責任を負いません。そしてまた私たちは何であれ本のなかに見いだしたもの、あるいは他のシステムのものを実践することを推奨しません。私たちは他のシステムをジャッジしませんが、彼等が何を扱っているのか知らず、それゆえ責任を持つことはできません。

　信じてください、この地球上で体験に基づいた知識を与えているシステムはほとんどありません。ほとんどのシステムは本の中に含まれている知識、あるいは過去の様々な理論を組み合わせたものが含まれている内容を扱っています。私たちは過去に生きていた誰かからの知識で、この実存の波動の中にいない誰かから知識を得ようとはしません。私たちは責任ある人間であり、何であれ私たちが与えるものはまず私たちがテストするべきであり、それは今現在にあるものです。

　この知識はある聖者または過去の人間から来たものであると言う人々がいます。それゆえ彼等は与えるものに責任を持つことができません。エレブナはそのようなことはしません。そして知識を与えるエレブナの人間は、聖者のように見られることを期待していません。とんでもないことです、この現れの波動に生きている人は誰であれ、たとえその人が自己実現に到達しているとしても、他の人々とまったく同じです。

　絶対存在でさえ、イエスキリスト・ロゴスとして彼自身を現していた間は、彼は自分自身を普通の人間として現していました。そしてある特定のステートにおいてのみ、彼は“彼と彼の父は一つである”と述べたのです。

Page3

 誰でもそうしたい人はエレブナに入会することができます、そして誰でも自由に去ることができます。誰でもそれが心に響く人はこのエレブナの道に従うことができます。しかし、あなた方がエレブナの道に従っている間は成長のための他の道をミックスするべきではありません。なぜなら多くの危険があるからです。あなたの心に響くシステム、アプローチを見いだして、それだけに留まってください。

　エレブナとして私たちはパワーとか能力というものを約束することはしません。しかし私たちが約束することは、最終的にあなた方がワークし、努力した結果である何かをあなた方が現すであろう、ということです。もしあなた方が大いに努力すれば、より多く現すことでしょう。努力しなければ、それほど多く現さないでしょう。そしてそれには時間がかかります。私たちはセミナーを開いて、セミナーの後でより良い能力が得られるでしょう、等と言うことはありません。なぜならアガピをお金で買うことはできず、また売ることもできないからです。言い換えれば、何であれLifeからのもの、それは売るものではなく、無料で与えるものです。しかし、あなた方はそのために努力する必要があります。

Q：私たちは継続的に不可視のヘルパーに助けられています、それによって状況が設定されることによって特定のレッスンを学ぶ事ができるように。ハイアーセルフまたはインナーセルフはこのような場合、不可視のヘルパーと共同で働いているのでしょうか？

K：私たちのハイアーセルフまたは最内奥のセルフはスピリットセルフです。そしてスピリットモナドセルフは決してアウタルキーを離れたことはありません。それは神のワンネス、絶対存在の中にいて、決して神のワンネスのアウタルキーを離れたことはありません。またインナーセルフ、それは魂のセルフエピグノシスは存在の諸世界を離れたことはありません；それは投射であり、それは魂のセルフエピグノシスからの微細なスパークであり、それが実存の諸世界に入り、現在のパーソナリティーを活性化させるのです。

　さて、このスパークはどこに見い出されるのでしょうか？そのスパークは私たちの内側に見いだすことができます。それは私たちの内側にあります。そしてこのスパークもまた神です。

最内奥のセルフからの微細なスパークは全体と異なることはありません。なぜなら、何であれ最大のなかにあるものは最小の中にもあるからです。それは量の問題ではなく、質の問題です。私たちの内側にあるこの微細なスパーク（それは実際、神なのですが）は諸宇宙を包み抱くことができ、その諸宇宙はこのLifeの偉大さのなかにおける微細な部分なのです。

 誰もLifeの偉大さを想像することができず、またその全ては私たちの中にあるのです。私たちが自己実現に到達する必要があると言う時、私たちはキリスト意識に到達する必要があります。そうです、誰かが神と一つになるのです。私たちがそれを理解できるか否かに関わらず、そのリアリティーはそこにあります。その人が転生のサイクルのなかにいてそのステートに留まるかどうかについては、答えはノーです。しかし、可能性はそこにあります。

　不可視のヘルパーは自己実現に到達した人間でありながら転生のサイクルに留まっています。他のヘルパー達もいて、彼等はアークエンジェルです。しかしそれらのアークエンジェル達は人間の痛みを軽減しません。彼等はLifeからのプログラムされたエピグノシス（＊内側から来る知識）に従って助けを与えます。

　不可視のヘルパーは自己実現に達した人間であり、彼等の中には現在のパーソナリティーとして転生する人もおり、またサイコノエティカル界に留まる人もいます。サイコノエティカル界にいる人は転生のサイクルに縛られないという意味ではありませんが、彼等は常に現在のパーソナリティーとして転生するわけではありません。五百年間、他の波動の中にいて、それから再び転生してくる人もいます。

Q：例を挙げると、私たちが誰かのことを考えていると、突然その相手に出会うことがあります。それは不可視のヘルパーがアレンジしたのでしょうか？

K：何であれ人生に起きることをアレンジするのは不可視のヘルパーではありません；人生のなかでそのようなことをアレンジするのは様々なパーソナリティーの永遠のアトムです。そして永遠のアトムのなかにはLifeのスパークがあります。さて、それはあなたがどのレベルの助けのことを言っているかによります。人はこの実存の波動のなかで助けを求めます。実存の他の波動のなかではあなたは助けを求めません。なぜなら、そこでは人が何を欲しようとも全ては現在のパーソナリティーの手の中にあるからです。

　さて、あなたが何かを予見し、最終的にそれが起きるとするなら、それは何であれ永遠のアトムからのものです。

Page4

 Q : 考えとエレメンタルに関してですが、あなたは常にエレメンタルは私たちの思考が創造するものであると言います。厳密に言ってエレメンタルを創造するのは思考ですか、それとも意識なのでしょうか？それは実際、機械的な思考でしょうか、それともエレメンタルを創造するのは思考の背後にある意識でしょうか、あるいはそれは一つであって同じものでしょうか？

Ｋ：いいですか、現在のパーソナリティーに関して、エレメンタルを生み出すのは思考の活動です、しかしそこにあるのは思考だけではありません。思考は二元性の結果ですが、願望想念という二元性があります。以前説明したように、２つのタイプのエレメンタルがあります。願望想念のエレメンタルと想念願望のエレメンタルです。人間はおそらく３番目のサイクルが完了するまでは、大部分願望想念のエレメンタルを創造します。

Ｑ：願望想念とは、意識から始まるのとは反対の脳の機械的な創造物なのですか？

Ｋ：違います、それは現在のパーソナリティーです。私たちが意識と言うとき、それはLifeを意味します。意識とLifeは同義語です。それらは意識によって、Lifeによって発生するのではありません。私たちは一つの現在のパーソナリティーであり、それは思考のあり方、感情気持のあり方です。ですからエレメンタルを創造するのは現在のパーソナリティーであり、願望想念または想念願望のいずれかを創造します。そして何であれ私たちが創造する結果として、私たちはその結果を経験します。Lifeが何かを創造し、その結果として現在のパーソナリティーがその結果を経験するのではありません。Lifeは二元性を現しません、このLifeのスパークには絶対善、絶対英知、絶対パワーがあり、それは何をも必要としません、私たちの内側のスパークですらそうです。

　ですから、無知の境界に閉じ込められていて、Lifeの本質を表現しないのは現在のパーソナリティーです。つまり、それは似ている同様のものではなく、それはアイコンなのです。似ている全ての可能性を持っています。そして私たちが似たものを現すためには、そのアイコンを壊す必要があるのです。

　同様であること、似ていることという言葉、それは主、神と一つになることを意味します。主は全ての人の内側に見いだされるでしょうか？そうです、主はこの地球だけでなく、諸宇宙における全ての人間を照らす光です。なぜなら、前に述べたように、このスパークは同じ海からの一滴、Lifeの水の一滴、Lifeの海からのLifeの一滴であり、絶対存在である海の一滴なのです。それはLifeの海であり、それは主であり、私たちはLifeの海からの一滴であり、実際Lifeの一滴なのです。しかし、Lifeの一滴はまた同時に海なのです。なぜでしょうか？なぜなら、それは海それ自体を包み抱く可能性、能力があるからです。ですから、何であれ最大のなかにあるものは最小のなかにもあります。そして最大のものは最小のものでもあるのです。

Q：何がエレメンタルを活性化するのですか、エレメンタルに命を与えるのは何ですか？

Ｋ：そのエレメンタルが別のパーソナリティーを意味しない限り、その人がそれを創造します。もし私たちが例えば建物のエレメンタルを創造するとしたら、私たちは何であれ自分が創造したものに対して責任があります。しかし、もし私たちが別のパーソナリティーを創造するなら、マインドの波動を使って築いたものにたいして責任があります。しかし、私たちが創造したパーソナリティーが何を意味し、現すにせよ、それは私たちが創造したパーソナリティーによって活性化されます。

　さて、私たちが動物界または植物界から何かを創造するとしたら、何が起きると思いますか？現象的にその中にはLifeはありません。しかし、個人的には私はそれに賛成しません。なぜなら、何であれ実在するのはLifeがあるからです。なぜなら、全ての中にはLifeがあります。さもないと実在することはないでしょう。

　例えば、自己実現した人が創造エーテルを使って物質化したり非物質化して、例えば犬を創造したいと思うとします。そしてその犬にこれらの波動の状態を与えることを欲したとします；それは可能です。それは普通の犬として吠え、他の犬がすることなら何でもするでしょう。この犬はどのようにして活性化するでしょうか、特別な犬の種によってでしょうか？答えはノーです。この動物の創造者は自分のLifeの息吹によってそれに命を与えるでしょう。そしてその何かはそのパーソナリティーと直接つながることでしょう。

　それは特定の種を管轄しているアークエンジェルが行うのとまったく同じです。そしてあなたが何を築いたり、あるいは命を吹き込もうとするにせよ、その動物はその創造者がその特定の動物に与えるであろうプログラムに従うでしょう。それはいわゆる本能と呼ばれるものです；それはその創造者によって与えられる本能に従うでしょう。かなり昔の時代にはそのようなエレメンタルを築くことのできる人、築くことを許された人達がいました。今、それらを出来る人はもはやそれを行いません。なぜなら、自己実現という能力に到達したからです。古代においてはそのような能力は自己実現の結果ではなかったのです。

Page5

Q：何かがテストされたと言う時、そのテストはどのようにして行われるのですか？

K：テストするという意味は、何であれ知識を実践するということです。それが体験的知識です。何であれあなたが持っている知識をテストするということです。つまり、あなたの知識に従ってあなたが機能することです。そして自己実現にとってこの知識とは何でしょうか？それはLifeの知識です。そしてLifeの知識という時、それはそのステートに到達したパーソナリティーがLifeの全ての知識を持っているということではありません、しかし現在のパーソナリティーの大きなサイクルの中に含まれているLifeの知識を持っているのです；私たちは過去にそれを分析してきました。

　創造の諸世界を越えて先に進む前においては、そのステートにおいて、存在の諸世界の体験的知識がある、創造の諸世界を越えた絶対存在のアウタルキーの体験的知識があるということではありません。それは不可能です。また魂のセルフエピグノシスでさえ体験的知識としてのそのような知識を持っていないと述べました、魂のセルフエピグノシスがけっしてアウタルキーを去ったことがなくてもです。まだそれはディバインの黙想の活動の諸世界の中です；言い換えれば、創造の諸世界の中ということです。これがテストされた知識と私たちが言う意味です；それは体験に基づく知識です。

　例えば、肉体からサイコノエティカル体を分離することができる知識を与えられました。それは知識です。自己実現に到達する前に何人ぐらいの人がそれを行うことができるでしょうか？多くの人が自己実現に到達する前にそれを行っていると主張しています。しかし実際には、彼等が行っていることは自分達の幻想、イリュージョンを生きているのです。皆さんの多くはエクソソマトシス（＊意識的幽体離脱）を行うためのやり方が書かれた本を読んだことがあると思います。そして人々は自分にはそれができるという幻想のなかにいます。もし自己実現に到達するのがそれほど簡単なら、私たちが住んでいるこの世界は完全なジャングルとなっていることでしょう。

　低い波動の現在のパーソナリティーが、Lifeの能力を持っているのを想像することができますか？その場合、この地球だけでなく、この諸宇宙全体が引き飛ばされていることでしょう！

Q：私にとって無条件の愛の概念そのものが難しいのです。無条件の愛の考えは理解しますが、しかし私たちが無条件に愛することができるかどうか、は別問題です。それをどのように実践したら良いのでしょうか？

K：そうですね、しかしあなたは何であれ愛から、アガピからのものを実践することです。あなたの努力に従ったレベルにおいて、あなたが行った努力の結果としてそれを現すのです。それが実際に生じていることです；継続的にあなた方各自はLifeからより多くを現しており、それはその人各人の努力に基づいています。“この人にはそのような才能がある”というのは違います。誰も贈り物として何かを受け取るということはありません；何であれ誰かが良いことを現しているなら、それはハードワーク、一生懸命に努力した結果です。私たちは自分達または他の人々にとって助けになる有益であるもののために努力すべきです。何であれ私たちにとって真に有益であるものは、同時に他人にとっても有益であり、その反対も同じです。

　またレッスンで述べましたが、誰かが自分自身のために努力し始める動機は二元性の結果です；エゴとエゴイズムです。しかし、そのエゴ、それはそのパーソナリティーを益するためですが、徐々にそれは同時に他の全ての人々を益するためにも働くようになります。なぜなら、エゴがそれに気づかない間に、そのパーソナリティーはLifeそれ自体から徐々により多くを現すようになるからです。そこでは影がどんどん小さくなり、エゴはつねに消えつつあります。現在のパーソナリティーとしての影を生みだすものに向かって進んでいくにつれて。パーソナリティーを無知の中に掲げるのはエゴですが、しかしそのエゴは最終的に殺される方向に進んでいるのです。

Page6

 Q : 火の洗礼のミステリーとは何ですか？

K：火の洗礼のミステリー（神秘）は4番目のサイクルに入る始まりです；それはいわゆる超意識的意識のセルフエピグノシスを現すプロセスの始まりです。それは3番目のサイクルをマスターした後、パーソナリティーが5つの真の感覚を完全に使用するようになった後です。そしてそれが起きると、そのパーソナリティーは火の洗礼が始まった後、いわゆる超意識意識のセルフエピグノシスを現します。言い換えれば、その瞬間から超意識的に生きるようになります。勿論、超意識の完了、それはまた4番目のサイクルの完了を意味しますが、それはそのパーソナリティーが5つの真の感覚の使用を背後に残して、同調を使用する能力が与えられるということです。そして同調はまた5番目のサイクルの自動的完了です。これが5番目のサイクルがそのパーソナリティーに与えるものです。同調を使用してコミュニケーションできる能力で、そこでは五感を使用せず、表現のために二元性を使用することもありません。そして思考の活動ももはや必要ないのです。

　そのステートでは、もしあなたが何かを築きたい時には、思考を使用せずに、ディバインのブレーシス（＊神の意志）を通じて行います…Lifeが諸宇宙を創造するように、またはLifeがLifeの他の王国を創造するように。そしてLifeと言うとき、様々なアークエンジェルのオーダーを通じてという意味です。

　私はブレーシスと言いましたが、なぜならそれは実存の波動の世界のためです。ディバインの意思という言葉を聞くと思いますが、そうでは、命令、命じます、それはそれ自体の中で命じます。命じるとそれが生じます。それを意志するのとは違います。

　あなたのブレーシスが何であれ、それは自動的に生じます；しかしあなたが意志を現す時にはそれは起きるかもしれず起きないかもしれません。

EREVNA/PYR51 KE07 L1/10/1/06